

3

手作りフードについて

3-1 利点と注意点

●手づくりフードには利点もありますが、十分な知識が必要です。

手作りフードのメリットは、使う食材や調理方法を飼い主自身が 100% 把握できることでしょう。

ただ、犬や猫が必要としているフードの栄養バランスは、私たち人間とは大きく異なっていますし、動物の種類によっては、ビタミンやアミノ酸の必要量も違っているなど、犬あるいは猫の栄養バランスやライフステージによって変化する栄養要求量を満たす最適なフードを作るためには、ペットの栄養に関する十分な知識が必要です。

犬や猫の栄養バランスや必要量、与えてはいけない食材などをよく理解した上で、チャレンジしてみてください。どのようなレシピにするかなど、専門家に相談するのもよいでしょう。



3-2 生肉や生魚を与える場合の注意点

●生肉や生魚も要注意です。

「犬は肉食動物だから生肉を与えています」、「猫は肉食動物だから、生肉や生魚だけを与えています」、という方がいらっしゃいます。

犬は雑食性の動物ですから、生肉だけを長い間与え続けていると、栄養バランスの偏りから、犬が本来必要としていて、食餌から補給しなければいけないビタミン類やミネラル類が不足してしまいます。このため、カルシウムやリンの不足あるいは過剰から骨格の異常がおこったり、食物繊維の不足から下痢をしたり、脂肪の過剰から肥満などを招くことがあります。

また、猫は本来、肉食動物ですが、レバーなどを長期間与え続けると、カルシウム不足による歩行障害がおこったり、ビタミン A の過剰による骨の発育異常などを起こすことが知られています。生魚の場合にも、マス、タラ、ニシン、ヒラメ、コイなどの魚はビタミン B₁ 分解酵素を持っているため、ビタミン B₁ の欠乏症である急激な麻痺などを起こしやすいことが知られています。(これらの魚でも、適切に加熱調理してやれば問題は起こりません。)

このように、犬や猫には肉や魚以外の食材も与えて、栄養の偏りを防ぐことが重要です。

また、肉や魚は、生のまま与えると内部寄生虫が発生したり、細菌性中毒などを起こす可能性があるため、加熱調理したものを与える方がより安全性が高まります。

